



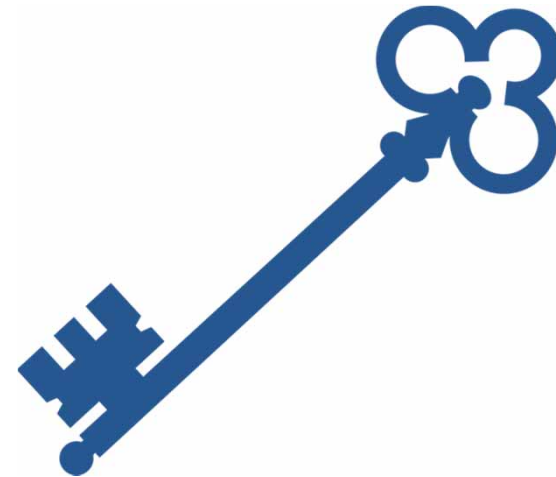
Climate Youth Japan (CYJ)

Kousuke kirihata

About CYJ :Our keywords

‘climate change,’

‘policies’ and ‘youth actions.’



About CYJ :Our Mission:

Our Mission:

1. Cultivation of Climate Leader
2. Raising Awareness
3. Idea Transmission
4. Building Network




About CYJ :Our Vision

- We (youth) aim to realize the balanced and sustainable society by leading climate change issues to the resolution.



Statement Project





我が国の気候変動対応策に関する提言書

平成28年10月3日

提言者
山本 公一 様

2015年12月、気候変動の国際協定「パリ協定」が採択されました。この画期的な協定を受けて今後世界各国で異なる対策が進むことが想定されます。気候変動対策が世界的に新たな局面を迎えているなか、日本国内における担い手づくりを政府として積極的に進めていく必要があります。

気候変動は、百年単位ほどの長期・長期的な問題であり、それ故、今後の社会を担う若者の意見が政策に反映されていくことが世代間衡平性の観点から求められると考えます。私たちClimate Youth Japanは、気候変動問題に関心と危機感を抱く日本の青年が集い、国際会議（COP）への派遣や当該問題への関心向上、国内外の多様なアクターのネットワーク構築を通して気候変動問題に取り組み、「衡平で持続可能な社会の実現」へ寄与することを目的に活動しております。本提言書は、今後長期に渡って影響を受ける気候変動問題の当事者である青年の立場から、我が国の気候変動対応策に関する要望を取り纏めたものです。本書が我が国の気候変動問題対応策に貢献し、そして持続可能な世界の実現に資することを願い、以下大項目7点を以て、提言者山本公一様へ提出致します。

項目1. 気候変動・エネルギー政策策定プロセス（委員会等）への青年の参画

青年の意見を政策策定の議論に反映するために、委員会等に青年が参画する機会を設けるべきであると考えます。現在作られている気候変動・エネルギー政策は、今日の青年世代が社会の中心を担う将来にまで大きな影響を及ぼします。たとえば、現在掲げられている日本の2050年、2050年の温室効果ガス削減目標を達成できるかどうかは、今だけ強制的な制度を整えるだけでは大きく左右されます。しかし、着実な政策・制度が作られる際に、青年の意見を議論の土台に反映できる機会はほとんどありません。

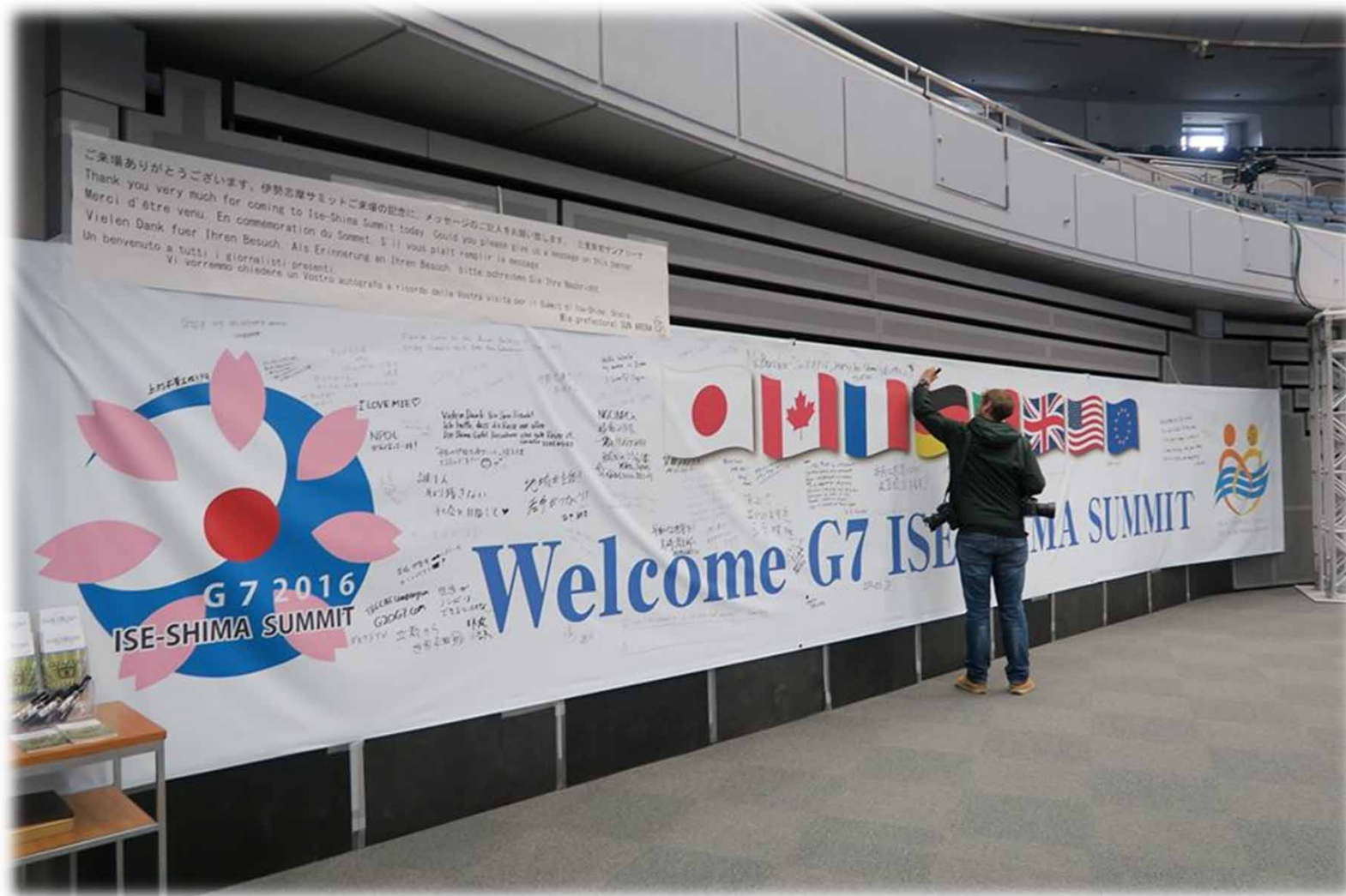
そのため、重要な政策策定においては、青年の代表が委員会で見解を述べる機会を設ける、もしくは、委員の中に青年枠を設けることを提案します。例えば、経済産業省 総合資源エネルギー調査会 基本政策分科会では、来年度にはエネルギー基本計画について議論が行われます。このエネルギー基本計画に基づき策定される発電用送電網は、60年60年後まで運用を継続することとなります。しかしながら、基本政策分科会の委員には20代・30代はおらず、40代もおらず存在です。そこで、基本政策分科会のような政策が議論される場において、青年の代表者が、プレゼンテーションを実施する時間

Japan-CLP

Japan Climate Leaders Partnership



G7 Summit Japan 2016



Events



**Make It Real
Tokyo2016**

**Conference of Youth11
Tokyo2015**



for a truly sustainable Tokyo Olympics

Working group
For Low Carbon Tokyo
2020olympics



<https://tokyo2020.jp/jp/games/sustainability/low-carbon-wg/>